【高等学校用】

令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立三養基高等学校

1　前年度 評価結果の概要	**学校評価アンケートにおいて、いくつかの項目で生徒・保護者と職員との評価に差があった。その差が解消されるよう、改善すべきところは改善を図っていきたい。 前年度は「100周年記念式典」があり、生徒の母校への愛着が高まった。これからはこの意識を継続させていきたい。ひいてはそれがふるさと佐賀への思い、心の教育へとつながっていくと考える。**
2　学校教育目標	**平和な国家及び社会に有為の人材を育成するため、校訓「質実剛健」のもと、自主自律の精神の涵養をとおして、知・徳・体の調和のとれた教育を目指す。**
3　本年度の重点目標	**①　自主自律と相互尊重の精神を備えた生徒の育成 ②　授業の工夫・改善と学習課題の精選をとおした生徒の学習の向上 ③　保護者、地域との連携の強化**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○家庭学習の充実	○家庭学習2時間以上の生徒を90％以上とする。	・日日の記録を用いて日日の生活リズムを本人および担任で共有し、学習習慣の定着を図る。 ・学習習慣の定着が見られない生徒には面談などを適宜行う。 ・学年集会等の機会を利用して学習の必要性について話をし、生徒の学習意識を喚起する。	B	・6/7～6/13、9/13～9/19の期間に学習時間調査を実施。クラス平均を見ると、1,2年生は若干目標に達していないクラスがあった。 3年生は9月にはほぼ達成できていた。 ・また、学校評価アンケートの「家庭学習の取り組み」の項目において、職員→良い＋ほぼ良い(75.5%)、あまり良くない(20.4%) 生徒→良い＋ほぼ良い(72.7%)、あまり良くない(24.1%) 保護者→良い＋ほぼ良い(65%)、あまり良くない(30.2%) という結果であった。 職員・生徒と保護者との意識の差が若干ある状況である。今後も三者面談等を通して、保護者と連絡を密にとっていきたい。	B	・学習時間調査、教科担当者会議などで生徒の現状を把握した上で、教員の、学習意欲を喚起させる授業力の向上、そして面談力の向上へ向けた取組が望まれる。 ・中間評価よりも最終評価が向上した点は評価できる。 ・生徒への指導助言を継続して行う必要がある。
	○進路意識の啓発と進路希望の達成	○国公立大学合格者50名、近隣有名私立大学合格者100名を目指す。	・各学年で進路講演会を実施する。 ・模試分析会（各学期1回）、進路検討会（3年3回、1・2年）を実施し、職員間での情報共有と改善策の検討を行う。	B	・進路講演会（生徒対象2回、保護者対象4回）、教科担当者会議（2年2回、3年1回）進路検討会（3年3回）実施。模試ごとに統計資料を配布し職員間で情報共有を行った。年内の国公立大学推薦入試等の合格者は13名で、実数で58名が一般入試に出願している。アンケートでは、保護者の78.4%、生徒の85.6%が合格状況について「良い」「ほぼ良い」と回答している。	B	・進路講演会や進路検討会は今後も継続して実施してもらいたい。 ・明確な目標設定をすることが難しい状況で、良い結果を残していると思う。 ・一人でも多くの進路目標の達成に向け、ご指導をお願いします。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育全体計画及び人権・同和教育年間指導計画に基づいて授業や指導を行った教員90％以上を目指す。	・各教科、特別活動、総合的な学習、講演会、読書、清掃活動、地域社会との関わりなど、あらゆる機会をとらえて心の教育を行う。	B	・宿泊研修や修学旅行などが実施できず、宿泊を伴う集団行動の中で身に付くものを学ぶ機会を逸した。 ・人の役に立つ行動や集団の中での自分のあるべき姿を意識した行動に関して、生徒の40～50%は高評価を下しているが、保護者・教職員は10%前後にとどまっていた。	B	・これからも人権・同和教育を継続して行い、それらの高い意識を保ち続けてもらいたい。 ・コロナ禍の中、今まで以上にあらゆる機会を捉えて、心の教育を行う必要がある。 ・実施できなかった学校行事もあるが、生徒は今までと異なる経験ができたと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ誘発の原因となるSNSの利用について、90％以上の生徒が適切な行動をとれるようにする	・防犯講話や適宜集会等で注意喚起を促し、SNSの利用の危険性について説明し、いじめ誘発等の原因づくりや加害者とならないための予防的対応を行う	B	・講話や全校集会、適宜各学年やクラスでSNSに関するトラブルへの啓発を行った。特別指導措置もなく、トラブルに繋がりそうな事案については予防的な指導を適宜行った。講演会等のアンケートでは、防犯の意識は高まったかという質問に対しては、93.6%の生徒が「高まった」もしくは「やや高まった」と回答していた。	B	・SNSのトラブルは、大人になっても注意が必要である。そういった点も講話などの中にあれば、さらに良いかと思う。 ・「具体的取組」に「いじめアンケート」の取組も記載すると、実施状況がより分かりやすいのではと思う。 ・生徒には、常に自分自身を見つめていて欲しい。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動を推進する。	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80％以上	・「佐賀を誇りに思う教育推進事業」を利用して講師を招聘し、講演会を実施することで、佐賀県について理解を深める。 ・年間を通して定期的に「佐賀語り」を読む時間を「朝読書等の時間」に設け、総合的な探究の時間に地域課題研究を行うことで、佐賀の魅力について学ぶ。	A	・「講演会後のアンケート」で、「郷土の価値を再認識することができた」と回答した生徒の割合が98%であった。 ・「ふるさとへの誇りや愛着に関するアンケート」で、「誇りや愛着を感じている」と回答した生徒の割合が80%以上であった。	A	・生徒には地元を離れても愛着を、誇りを持ち続けて欲しい。 ・国際文化コースが設置されていた時には、学校設定科目「地域を学ぶ」があり、学校の歴史、先輩、地域の文化を学ぶ機会があった。 ・この取組は素晴らしい。将来、佐賀を支える人材として成長して欲しい。
●健康・体つくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0（ゼロ）にする。	・通学路での交通指導 ・生徒指導部主催の交通講話 ・登下校や部活時における危険の可能性についての注意喚起	A	・通学時のマナーについては生徒・職員ともに90%以上が肯定的に捉えている。保護者も70%以上が肯定的に感じてもらえている。 ・交通事故も本年度は大きな事故もなく経過することができた。	A	・先生方の指導により、マナーは素晴らしいと感心している。 ・入学後早い時期に、交通指導を行いルールとマナーの定着を図りたい。 ・通学時、自転車の右側通行者がいる。指導が必要である。
	○登下校や部活時の事故を減らす	○受診勧告による受診率前年比5％増を目指す。	・学年集会やHR時における、健康についての意識向上を図る指導 ・受診、早期治療の重要性の周知	A	・受診勧告にもとづく受診率は前年度より上昇したが、課外や部活動の関係で必ずしも十分とはいえない。 ・講話関係は90%以上の生徒が意識が高まったと捉えている。 ・感染症対策も90%以上の生徒が心がけて行動ができているとしている。	A	・「取組内容」と「成果指標」の関連性が薄い。 ・コロナ禍で様々な対応が大変だったと思われる。この対応の積み重ねはマニュアル化しておくと今後活用できるのではないかと思う。 ・我慢の日々ではあるが、この状況からも生徒はしっかり学んでいると思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤推進日を毎週月曜日に設定する。 ・部活動休養日は、年間平均週2回確保する。 ・持続可能性の観点から、校務分掌業務のスリム化、効率化を図る。	B	・休養日を月曜日に設定した部活動の顧問は定時退勤できる時もあった。 ・練習自粛期間もあったため、休養日は多くの部活動で平均週2回確保できた。	B	・時間を上手に使い、生活して欲しい。 ・難しい問題ではあるが、生徒の学力向上と部活動指導を考えると、概ね良いのではと思う。 ・働き方改革を考えると、部活動指導の問題が出る。学校現場だけでは解決は難しいと思う。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・今年度も生徒・保護者アンケートからは、「入学してよかった」「入学させてよかった」と高評価を得ることができた。それぞれの取組を継続することにより、この高評価を継続していきたい。 ・コロナ禍ではあったが講師の招請、広報活動への協力、まちづくりへの提言など地域との関わりある活動を多く実施できた。次年度も同様に活動していきたい。 ・生徒・保護者アンケートや学校評議員等からの意見を踏まえ、これからも「選ばれる学校」となるよう、生徒とともに校内外の教育活動に工夫・改善を続けていく。